



敦賀港で「みなとふれあい教室」を開催しました

平成27年7月6日、敦賀港のフェリーターミナルで、市内の敦賀西小学校5年生の児童41名が、港の役割や海への関心・親しみを高めてもらうことを目的に「みなとふれあい教室」と題しフェリー見学、講話、稚魚放流を体験しました。

最初に接岸中の「すいせん(全長225m、総トン数17,400トン)」に乗船し、広い船内の豪華な客室やシアタールーム、操舵室などを見学して回り、「すげ〜!」「ホテルみたいや」などと驚きの声を上げていました。

次にターミナル内にて、敦賀市漁協の濱上組合長から魚の話、そして当事務所の吉田所長からは「港はみんなの生活にとって重要な役割を果たしており、敦賀港は古くから大陸との玄関口として栄えてきた国際港です」など講話があり、皆熱心に耳を傾けメモを取っていました。

最後に隣接する親水護岸に移動し、敦賀市漁協の協力の下、真鯛の稚魚1,400匹の放流を行いました。児童たちは元気に泳ぎ回る稚魚に四苦八苦しなながら網とバケツですくい上げ、「他の魚に食べられたらあかんで〜」「刺身にできるくらい大きくなってね〜」と、思い思いを口にしながら楽しそうに放流していました。



フェリー船内見学（操舵室にて）



吉田所長の講話



稚魚をすくう児童たち



敦賀港へ放流（元気でね〜）